

活動成果報告書

令和6年度(第28回)「チヨダ地域保健推進賞」

活動テーマ 臨床心理士によるペアレントトレーニング事業 (「トリプル P に学ぶ前向き子育てプログラム」による児童虐待防止への取り組み)	
グループ名称・氏名(グループの場合は代表者名) 神戸市中央区 保健福祉部 保健福祉課 代表者:磯田 麻美	
勤務先:神戸市中央区役所 所 属:保健福祉部 保健福祉課 所在地:〒651-8570 兵庫県神戸市中央区東町115 TEL:078-335-7511 FAX:078-335-6644	 ↑ グループワークの様子 ↑ 案内ちらし

◇活動方針

全国的に児童虐待対応件数が顕著に増加している中、本市においても通告後の事後対応に追われ、予防的な取り組みが十分とは言えない現状がある。ペアレントトレーニングにより、保護者が子どもの行動の捉え方、具体的ななかかわりの方法やスキルを学ぶことで、児童虐待や不適切な養育の防止(予防)を図り、地域における健やかな子どもの成長を支援することを目的として実施している。

◇活動内容とその成果

<活動内容>

保護者が子育てに自信を持ち、地域において子どもがのびのび育つような環境をつくっていくこと目指し、講師である臨床心理師協力のもと、令和3年度より新規事業として「トリプル P に学ぶ前向き子育てプログラム(トリプル P: positive parent program)」を実施している。トリプル P は、オーストラリアで開発され 35 か国で実施されている学習プログラムで、親子のコミュニケーション、子どもの問題行動への対処法など具体的なスキルを学ぶことができる内容となっている。

当区では、グループワーク(以下、GW)形式を2回、単発講座のセミナー形式を3回実施しており、いずれも1歳～小学生の保護者(父母両方の参加も可)が対象。GW のうち1回は、発達に何らかの障害をもつ子どもの保護者を対象としている。

GW 形式ではそれぞれ5～6回の GW と2～3回の電話セッションを行い、欠席の場合は対面もしくは ZOOM による補講を行う。講師のファシリテーションにより、保護者同士の意見交換や講師による助言等行っている。各回ホームワークがあり、実際の子育て場面でスキル等を実施して、次の GW で共有、講師の助言を得るなど双方向的なプログラムである。また、電話セッションでは、講師が直接子育て中の保護者に電話をかけ、30 分程度、個別具体的な子育ての悩みや状況を聞き、トリプル P の内容に則った助言を行う。

活動成果報告書

セミナー形式の講座では、①前向き子育てのパワー、②自信と能力のある子を育てる、③困難な状況に適應できる子を育てる、の3回シリーズを実施。令和3、4年度は ZOOM 配信、令和5年度より対面実施(40 世帯、託児あり)としている。

なお、いずれも令和3年度実施当初より、講師以外にも神戸真生塾子ども家庭支援センター(児童家庭支援センター)の協力を得て実施している。

<活動成果>

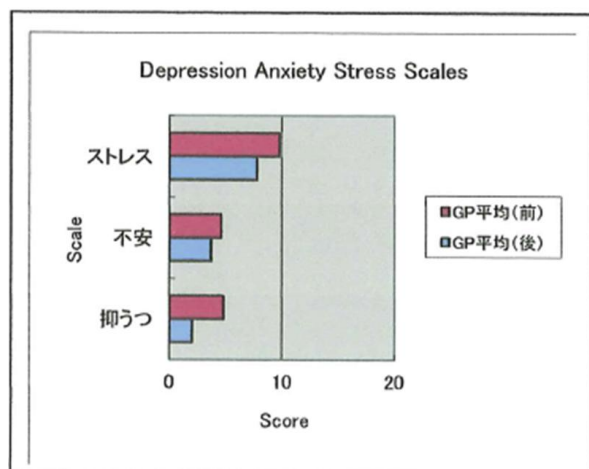
プログラムの一環で GW 実施前・実施後で子育てスキル・子どもの行動の変化・保護者の心的状況の改善状況等についてアンケートを実施、講師によるアセスメント評価を行っている。その結果、総合して改善傾向が見られた。特に「親自身のストレスや不安尺度(表 1)」の低下が見られ、「プログラムの内容の質・有効性・満足度」においても高い評価を得られたことから、トリプル P 導入における児童虐待防止への効果が示唆されたと言える。

さらに欠席者への補講実施が参加者のモチベーション維持に繋がっており、これまで GW 途中に参加を中断した保護者は0世帯である。

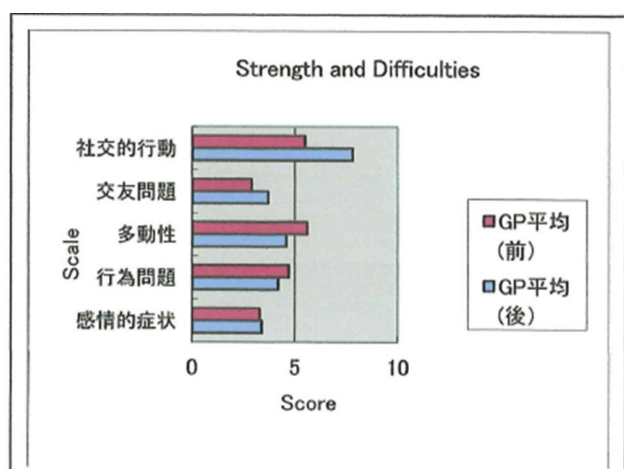
また、要対協(児童虐待)ケース、保健師フォローケースの保護者も参加しており、保護者の意識の変容や、区職員と保護者が子育てに関する共通理解や認識を持つことによる支援的效果が窺えた。トリプル P がプログラム実施だけに留まることなく、区の継続支援の流れの中で有効的に活用できていると考えられる。

*保護者への事前・事後アンケート調査のアセスメント(一例)

(表 1)親自身のストレスや不安尺度

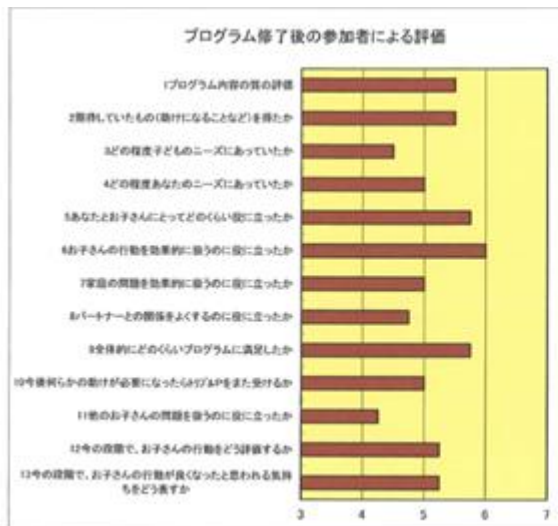


子どもの行動の長所・難しさ



活動成果報告書

*プログラム参加者による評価



質問項目	平均	標準偏差
1 プログラム内容の質の評価	5.50	1.66
2 期待していたもの(助けになることなど)を得たか	5.50	1.12
3 どの程度子どものニーズにあっていたか	4.50	1.66
4 どの程度あなたのニーズにあっていたか	5.00	2.00
5 あなたとお子さんにとってどのくらい役に立ったか	5.75	1.30
6 お子さんの行動を効果的に扱うのに役に立ったか	6.00	1.73
7 家庭の問題を効果的に扱うのに役に立ったか	5.00	2.00
8 パートナーとの関係をよくするのに役に立ったか	4.75	0.43
9 全体的にどのくらいプログラムに満足したか	5.75	1.30
10 今後何らかの助けが必要になったらトリプルPをまた受けるか	5.00	1.22
11 他のお子さんの問題を扱うのに役に立ったか	4.25	2.38
12 今の段階で、お子さんの行動をどう評価するか	5.25	1.92
13 今の段階で、お子さんの行動が良くなったと思われる気持ちをどう表すか	5.25	1.92
total	5.19	1.73

◇今後の計画

トリプルPを導入することで、保護者の意識の変容、子育てスキルの獲得、子育て負担感の軽減の効果が見られ、児童虐待防止に寄与されることがわかった。また、一方的な講義形式ではなく、GW や電話セッションを通じた双方向的・個別具体的なやりとり、ワークブックや DVD を使用した視覚的な取り組み、ホームワークによる保護者自身の気づきの促しや参加者同士の共有等によるトリプルP 導入の有用性が示唆された。

また、副次的効果として、プログラムを通じて気になる保護者のかかわりや親子関係の課題が見えてきた際、講師と区職員がそれらを共有することで適切に区の支援につながり、児童虐待の早期発見・早期対応につながることもわかった。区の役割が児童虐待の事後対応だけでなく、未然防止・早期発見・早期対応であることを鑑みると、トリプル P をひとつの支援ツールとして活用できることが明らかになった。

区独自の予算で委託事業という位置付けで本事業を実施しているが、広報・受付窓口・スタッフ動員等、区職員が実働している。区の支援の一環として導入している現状や、その後の効果的な継続支援につながり有用性を鑑みると、区職員がプログラムに参加することに意義があると考えられる。

事業形式の在り方を踏まえ、発展的な見直し、地域の関係機関も巻き込みつつ効果的に継続していくための検討が今後の課題である。